

広 報



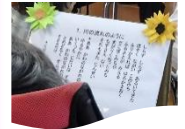
さくら

第55号

令和 2年11月 1日発行
発行 小千谷さくら病院
発行責任者 中山 克成
編集 広報委員会



音楽祭2020



当院の病院祭は秋の開催が恒例となっていました。今年は新型コロナウイルスの影響によりやむなく中止とさせていただき、代替案として各病棟を音楽隊が回る「秋の音楽祭」を行いました。音楽隊のメンバーは皆木医師、大谷看護部長、蛭澤看護長、音楽療法士の中村さんで結成され、ギターとキーボード、鉄琴によるコラボレーションとなりました。

歌詞をコロナ禍風にアレンジした「明日があるさ」や「365歩のマーチ」など計4曲を演奏しました。その4曲は事前に患者様から多くのリクエストを頂いた中からの選曲でしたが、「もっと聴きたい」「私のリクエストした曲は？」と、まだまだ聴きたいとの言葉が聞かれました。時間に限りがあり全病棟を回る都合上、患者様のリクエストに答えきれなかった曲は次回への参考にしたいと思います。

今回の音楽祭で患者様がマラカスやタンバリンを鳴らし、笑顔で歌を口ずさむ姿を見るとコロナ禍による面会制限等ある中で、少しでも晴れやかな気持ちになって頂けたように感じました。

コロナ禍における生活はもう少し続くだらうと報道されています。一日も早く元通りの生活になる事を願いつつ、今回アレンジした「明日があるさ」の歌詞の一部を紹介させていただきます。

「明日があるさ 明日がある コロナに負けずに頑張ろう いつかきっと いつかきっと 以前の生活を」

合同レクリエーション委員会（介護福祉士） 佐野 和彦



小千谷さくら病院の理念

自分なり家族や友人が利用したい病院づくり

食べる力に応じた食事対応について

当院では経口摂取の患者様が3年連続10%ペースで増加している反面、経管栄養の患者様は減少傾向が続いています。その背景には経口摂取で入院される患者様と経口摂取を長く続けられる患者様人数の増加があります。年齢と共に身体機能は衰えていくものですが、当院の患者様は疾患上そのスピードが速いです。訓練で機能低下を遅らせる事はできても機能低下自体の回避は出来ない為、食べる力に応じた食事対応を随時行うことが重要であり、それを多職種で検討し積み重ねてきた結果が経口摂取の患者様増加に繋がったと実感しています。引き続き療養生活の一助になれるよう努めていきたいと思っております。

食べる力に応じた段階的なお魚メニューの一例



噛む力・飲み込む力強い



噛む力・まとめる力が弱い



噛まない・飲み込む力弱い



噛む力・飲み込む力が弱い

管理栄養士 内山 奈々

発声集団の取り組み

リハビリ言語聴覚士部門（ST）では、主に「明るく楽しく声を出す」というテーマで、毎週水曜午後に発声集団を行っています。声を出すことに加え、以前本誌にてお伝えした通り、楽器を用いた発表会なども行っていました。

昨年度までは、ST室が満員になり、患者様、スタッフの席を確保するのが困難なこともありました。

しかし、新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から「新しい発声集団様式」が求められる事態になりました。

もちろん、スタッフも初めての経験で、暗中模索の中、様々な試行錯誤を行いました。

現在では職員食堂にて「3密」を避けながら、発声集団を行っています。昭和の雰囲気だよう職員食堂は、患者様にも好評をいただいています。

写真はホラー映画の「貞子」です。ちょうど酷暑の時期で、患者様に季節感と楽しさを味わいながら発声を行うという目的で行いました。患者様とスタッフが楽しんで声を出す様子が伝わると良いのですが。

今後も感染予防に十分に注意しながら、発声集団を継続していきたいと思っています。

言語聴覚士 井口 正明



3病棟でのレク活動

3病棟では今年度から、介護スタッフとリハビリスタッフ共同でレクリエーションを企画し、実践しています。前年度は業務の忙しさから数回しかレクリエーションを行えなかった反省を活かし、リハビリと共同で行なうことで安定したマンパワーを確保して、毎月患者様にレクリエーションを提供する事が出来ています。また、リハビリにあるレク材を活用したレクリエーションが行えることや、患者情報を共有し、普段の業務でもより連携が取りやすくなるなどメリットが多くあります。

今後も共同で実施していくことで、多くの患者様に楽しんで頂けるレクリエーションを提供していきたいです。

介護福祉士 下村 健



アロマテラピー

花の苗植え



風船パレー

新型コロナウイルスと世界と私

皆さんは、トライアスロンという競技をご存じでしょうか？一人でスイム（泳ぐ）バイク（自転車）ラン（走る）という3つの異なる種目を行うものです。私は、体力・持久力を必要とする仕事柄という訳でもないのですが嗜んでいます。

新潟県では佐渡国際トライアスロンが有名かと思います。私も出場経験があります。スイム4km・バイク190km・ラン42.2kmという内容です。これだけの内容ですと当日の気合や根性だけでどうにかなるものではなく、日頃の取り組みが大事になります。今年は新型コロナウイルスの影響で大会中止となっています。そうすると、やる気がわかず練習もしない日々が続くと想像されるかもしれませんが、休日にはバイク100km・ラン20km練習することもあり例年と変わらず、大会が開催されない生活に順応しています。

緊急事態宣言下の都会の方では自転車に乗っていると、この大変な時期に不謹慎なという雰囲気があったという話も聞きます。そして今度は、10月に入り毎日感染者が出ているにも関わらず様々なキャンペーンを展開して外出を是とする方向に向かっています。私はこの世間の風潮の変化に極端さを感じ戸惑っています。

今、コロナ禍と言われています。いずれ「禍」の字がなくなりコロナとの共存が日常になるのかもしれませんが、早く落ち着いた日々が送れるよう願って止みません。



介護福祉士 覚張 正樹

新病棟整備事業について

平成13年(2001年)3月1日に国立療養所西小千谷病院を国から移譲を受け、「小千谷さくら病院」として開院し、当初は脳卒中による回復期リハビリ患者の入院もありましたが、現在では神経難病を最後まで見られる病院として広く受け入れられ、19年8ヶ月の歳月が流れました。

しかし、建物に至っては一部(第3病棟)を除き昭和55年(1980年)~56年(1981年)に建設され、40年経過しています。その間、平成16年(2004年)10月23日に新潟県中越地方を震源とするマグネチュード6.8(M6.8)最大震度7の新潟県中越地震に見舞われたほか、小千谷市は新潟県でも特別豪雪地帯に指定されており、平成29年(2017年)冬の大雪など、自然災害等を経た建物は入院患者様の療養生活や働く職員の環境を考えると非常に厳しい状況にあります。

また、今年はコロナウイルス感染症の影響で中止となりましたが、毎年行っています「患者満足度調査」のアンケートでも建物に対する不満等が寄せられていました。修繕工事等で維持していましたが、年数を重ねた建物の修復には限界があり、平成30年度(2018年)よりプロジェクトを発足し、新しい病棟の整備計画を進めてきました。今年度より設計計画等の検討に入り、2年後には新病棟でより良い入院生活がおくれるよう環境整備を進めている状況です。

今後も患者様やご家族様、地域の方に信頼されるよう、安全で安心な環境づくりに取り組みますので、ご理解とご協力をお願い致します。

事務長 中山 克成



編集後記

暑かった夏が終わり、急激に気温が下がってきました。私は気温の変化になかなかついていくことができず、服装や寝る時の掛け物などに毎日悩みながら過ごしています。

コロナ禍が続く状況で、手洗いやうがいなど日々の感染対策に努めていますが、今後はインフルエンザや風邪も流行ってくる時期なので、より体調管理に気を配って生活していきたいです。(下村 記)



社会福祉法人長岡福祉協会
小千谷さくら病院

〒947-0041 新潟県小千谷市小栗田2732番地
電話(代表) 0258-83-2680
FAX 0258-83-4416
URL <http://www.sakurahp.com>
E-mail info-01@sakurahp.com
広報委員 中山 克成・風間 麻代・覺張 正樹
下村 健・山崎 厚子・伊佐 純子